

平成26年度

# 事業報告書

自 平成26年4月 1日  
至 平成27年3月31日

公益財団法人 根津美術館

東京都港区南青山6丁目5番1号

# 目次

I 公益事業.....	3
【事業の趣旨】 .....	3
【施設の概要】 .....	3
【事業の概要】 .....	3
1. 展示活動.....	3
(1) 特別展・コレクション展.....	3
(2) 日本庭園 .....	5
(3) ミュージアムショップ .....	6
(4) 喫茶店.....	6
2. 美術品の収集、保管及び修復.....	6
(1) 美術品の購入.....	6
(2) 美術品の保管・修復.....	6
(3) 美術品の寄贈受入.....	7
(4) 美術品の寄託受入.....	7
3. 調査研究.....	7
(1) 調査・研究.....	7
(2) データベース .....	8
(3) 研究資料の整備 .....	8
(4) 学術プロジェクトへの参加 .....	8
(5) 美術品の閲覧.....	8
4. 教育普及.....	10
(1) 催事.....	10
(2) インターネットによる広報 .....	12
(3) プレスリリース .....	12
(4) ポスター・チラシ・年間スケジュールパンフレット .....	13
(5) 内覧会・レセプション .....	13
(6) 施設案内パンフレット .....	13
(8) 地域との連携.....	14
(9) 有料広告 .....	14
(10) 根津倶楽部.....	14
(11) NEZUNET .....	15
(12) 青山茶会.....	15
(13) 美術品の館外貸出.....	15
(14) 画像の貸出.....	17
(15) 施設の貸与.....	17
II 収益事業.....	18
【事業の概要】 .....	18

1. 不動産事業.....	18
<b>III 庶務の概要</b> .....	<b>19</b>
1. 役員.....	19
2. 職員.....	21
3. 役員会.....	22
(1) 理事会.....	22
(2) 評議員会.....	23
<b>IV 事業報告の附属明細書</b> .....	<b>24</b>

## I 公益事業

### 【事業の趣旨】

昭和 15 年(1940) 11 月、初代根津嘉一郎(1860~1940)の遺志により財団法人を設立、翌年 10 月に開館した根津美術館は、美術品の展示及び教育・普及活動を行うことにより、多くの人々が日本・東洋古美術を鑑賞し、芸術・文化に関する理解を深めることを目的とした諸事業を展開している。

今年度もその理念に基づき、特別展 4 回(前年度より開催した「清麿」展の 6 日間を含む)と所蔵美術品によるコレクション展 4 回を開催し、展覧会に関連した講演会、会員向けプログラム、施設を利用した催事などを実施した。

所蔵美術品の調査研究を行い、その成果を館内外での発表や紀要や図録等の刊行物により公表し、館外の学術研究及び教育普及活動への協力などを行った。また、継続的な収集活動によってコレクションの充実を図り、修復などによる美術品の維持・管理に努めた。

### 【施設の概要】

平成 21 年 10 月に新創開館した本館は地上 2 階(展示室 1~6 など)、地下 1 階(講堂など)。平成 2 年に建設した展示施設を同 19 年に収蔵庫と事務室に改装した事務棟は地上 2 階、地下 1 階からなる。平成 21 年度地域新エネルギー等導入促進対策費補助金補助事業で導入した、本館 2 階屋根上の 252 枚のソーラーシステムパネルを引き続き運用し、資源エネルギーの活用を努めている。

日本庭園には、薬師堂および茶室 4 棟があり、各所に石造物約 150 件が据えられている。庭園の豊かな樹木は港区の保護樹林に指定されている。

### 【事業の概要】

#### 1. 展示活動

##### (1) 特別展・コレクション展

美術館の開館時間は、午前 10 時から午後 5 時までとし、月曜日と展示替期間及び年末年始を除く毎日開館した。なお特別展「燕子花図と藤花図―光琳、応挙 美を競う―」会期中の 5 月 13 日(火)より 5 月 18 日(日)までの開催日 6 日間は、午後 7 時まで開館時間を延長した。

入館料は、原則として特別展の場合一般 1,200 円、学生 1,000 円、コレクション展では一般 1,000 円、学生 800 円とし、いずれも中学生以下は無料とした。20 名以上の団体、障害者手帳提示者と同伴 1 名及び運転経歴証明書提示者へは 1 名につき 200 円の割引を行い、また 100 円割引料金の次回展の前売券を美術館内で販売した。

平成 26 年度は、開館日数計 241 日間に、来館者 170,798 名(うち有料来館 152,920 名)を迎えた。

1 階展示室 1(場合により展示室 2、5 を含む)では、下記の 8 回の特別展及びコレクション展を開催した。特別展は当館の所蔵美術品のみならず館外から借用する美術品も含めて構成し、コレクション展は所蔵美術品を中心に、適宜特別出品、参考出品などの作品により構成した。いずれの展覧会も、当館学芸部が企画し、担当学芸員が中心となっており、作品の選定、運搬、会場構成、展示、特別展図録、関連する所蔵品図録などの作成を行った。また、鑑賞しやすさを考慮した展示に努め、国内外からの来館者が理解しやすい日本語・英語表記の展示解説を付し、日本語の音声ガイドを備えた。

- ① 展示室 1 特別展「生誕 200 年記念 清麿展 ー幕末の志士を魅了した名工ー」  
平成 26 年 2 月 26 日（水）～4 月 6 日（日） 当年度内の展示日数 6 日間  
入館者 4,114 名（有料 3,608 名） （全開催日 35 日間・入館者 16,334 名）
- ② 展示室 1・2 特別展「燕子花図と藤花図ー光琳、応挙 美を競うー」  
平成 26 年 4 月 19 日（土）～5 月 18 日（日） 展示日数 27 日間  
入館者 5,2217 名（有料 48,386 名）
- ③ 展示室 1 コレクション展「カラフルー中国・明清工芸の精華ー」  
平成 26 年 5 月 31 日（土）～7 月 31 日（月） 展示日数 38 日間  
入館者 18,413 名（有料 16,298 名）
- ④ 展示室 1 コレクション展「涼風献上ー絵とやきもので暑中お見舞いー」  
平成 26 年 7 月 26 日（土）～9 月 7 日（日） 展示日数 38 日間  
入館者 15,681 名（有料 13,802 名）
- ⑤ 展示室 1・2 新創開館 5 周年記念特別展「名画を切り、名器を継ぐ  
ー美術にみる愛蔵のかたちー」  
平成 26 年 9 月 20 日（土）～11 月 3 日（日・祝） 展示日数 39 日間  
入館者 29,359 名（有料 26,139 名）
- ⑥ 展示室 1 コレクション展「誰が袖図ー描かれたきものー」  
平成 26 年 11 月 13 日（木）～12 月 23 日（火・祝） 展示日数 35 日間  
入館者 19,994 名（有料 17,527 名）
- ⑦ 展示室 1・2 特別展「動物礼讃ー大英博物館から双羊尊がやってきた！ー」  
平成 27 年 1 月 10 日（土）～2 月 22 日（日） 展示日数 38 日間  
入館者 13,515 名（有料 11,299 名）
- ⑧ 展示室 1・2 コレクション展「救いとやすらぎのほとけー菩薩」  
平成 27 年 3 月 7 日（水）～4 月 6 日（月） 当年度内の展示日数 20 日間  
入館者 10,899 名（有料 9,732 名） （全開催日 26 日間・入館者 14,944 名）

また、上記の展覧会の同時開催として、展示室 2、5 では、特別展・コレクション展の内容とのバランスをはかり、それと異なるあるいは連動するジャンルやテーマに基づくテーマ展示、また展示室 6 では季節に合わせた茶道具の展示を下記のとおり行った。なお一覧中の“ー”は上記特別展・コレクション展の一部であることを意味する。

会期	展示室 2	展示室 5	展示室 6
①	「神護寺経」	「雛まつりー旧竹田宮家の雛人形と 雛道具ー」	「花時の茶事」
②	ー	「秋草の壺と酒器 ー秋山コレクションの楽しみ方ー」	「初夏の茶の湯」
③	「明清の絵画」	「明清の絵画」	「鳴神月の茶」
④	「高麗・朝鮮時代の仏画」	「手紙ーこころを伝えるー」	「夏の茶事」
⑤	ー	「源氏絵と伊勢絵」	「秋光を楽しむ茶」
⑥	「婚礼衣裳」	「館蔵の名碗 20 撰」	「霜月の茶会」
⑦	ー	「百椿図」	「初月を祝う ー新年の茶会ー」
⑧	ー	「北野天神縁起絵巻（根津本 I）」	「暮春の茶の湯」

ホール～展示室 3 では、「仏教彫刻の魅力」を⑧の会期から「仏教美術の魅力」に替え、展示室 3 に「春日若宮大般若経」と「春日厨子」を展示した。

展示室 4「古代中国の青銅器」は前年度より、展示作品の一部にテーマ性のある展示を行っており、今年度は、前年度から展示していた「花文様の鏡」を引き続き展示した。

なお、展覧会開催中、以下のとおり海外要人を多数お迎えした。

平成 26 年 9 月 2 日 フランス ギゴーフランス国会議員・元大臣、

ジョセ駐日フランス文化参事官

平成 26 年 10 月 8 日 ルクセンブルク ギョーム皇太子殿下、同妃殿下、

キルシュ駐日ルクセンブルク大使ほか、経済使節団のメンバー

平成 26 年 10 月 3 日 ヴェネズエラ ルイス・ブリット・ガルシア教授(政府の大統領

諮問委員会メンバー、作家・学者・知識人)、ゴンサロ・ビバス公使参事官

平成 26 年 10 月 29 日 ドイツ連邦議員団、フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ大使

平成 27 年 1 月 27 日 ヴルフ前ドイツ連邦共和国大統領、

平成 27 年 3 月 9 日 ドイツ メルケル首相、安倍首相、フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ大使  
その他、エスカーラ駐日ペルー大使、ケネディ駐日アメリカ大使、カハノフ駐日イスラエル大使、  
駐日海外公館関係者など。

## (2) 日本庭園

17,000 平米におよぶ日本庭園は、中央に湧水の池を配する変化に富んだ地形に喬木や灌木が茂り、池の周囲に建つ 4 棟の茶室や点在する約 150 件の石造物が風情を添える。四季に応じた自然の変化を楽しむことのできる庭園の存在は、当館の特色のひとつでもある。当年度もまた、これまでに引き続き、来館者の安全を最優先した環境の整備に心がけ、生態系の維持管理に努めた。

平成 25 年 10 月より、毎月木曜日に 1 棟ずつ、一般来館者向けの茶室見学会を開催している。

### [平成 26 年]

4 月 2 日 (木)	弘仁亭・無事庵	22 名
5 月 8 日 (木)	一樹庵・披錦斎	20 名
6 月 19 日 (木)	斑鳩庵・清溪亭	91 名
7 月 31 日 (木)	弘仁亭・無事庵	45 名
9 月 25 日 (木)	閑中庵・牛部屋	54 名
10 月 16 日 (木)	一樹庵・披錦斎	73 名
11 月 27 日 (木)	斑鳩庵・清溪亭	117 名

### [平成 27 年]

3 月 19 日 (木)	一樹庵・披錦斎	12 名
--------------	---------	------

計 8 回 434 名

東京都建設局公園緑地部の呼びかけに応じ、「東京の日本庭園おもてなし協議会」に加盟。定期会合を通じた意見交換などの活動に参加。11 月 28 日を「いいにわの日」とする都立庭園の入館料割引などのキャンペーンへの参加要請は見送ったが、独自に、11 月 28 日～30 日を「南青山で紅葉狩り」キャンペーンとして、庭園内の 4 棟の茶室の露地を開放し、そこで撮影した写真を Twitter 上でシェアするよう告知した。直前の告知にもかかわらず、40 件を超えるシェアがあった。

### (3) ミュージアムショップ

ホールに隣接するミュージアムショップでは、当館の施設や所蔵美術品、開催の展覧会に関連した商品を取り揃え、来館者の多様なニーズに合った、また知的欲求に適う商品の販売活動を行った。

学術研究の成果に基づく図録や研究紀要などの書籍に加え、展覧会の内容を考慮した専門書・一般書籍を販売するとともに、出展作品の絵葉書やグリーティングカード類、また所蔵美術品をもとにデザイン性や適正な価格を考慮したオリジナル商品を企画・制作・販売した。さらに、適宜、季節や展覧会のテーマに合った委託商品を加えることでバリエーション豊かな商品構成とし、また効果的なディスプレイを工夫することにより、当館ならではのショップづくりを促進した。

当年度、新たに製作したオリジナル商品は 16 品目 43 種、委託商品は 11 社 312 種である。その中でも、フランスの老舗クリスタルブランド「バカラ」社とは、未年の 2015 年の年初に「動物礼讃」展に当館の双羊尊と大英博物館のそれが並ぶことなどから、羊をモチーフとした商品開発を共同で実施。バカラ社のクリスタルグラスに、当館の「双羊尊」をサンドブラスト加工したオリジナル製品を当館ミュージアムショップだけでなく、バカラ社直営ショップ 5 店舗、東武百貨店内のバカラショップ、東武百貨店の外商部でも販売。当館ミュージアムショップでは 137 個を売り上げた。

引き続き山梨市の根津記念館「ミュージアムショップ平等」に商品および出版物の販売を、また東京国立博物館などのミュージアムショップに出版物の販売を委託し、さらに所蔵美術品の貸出先のミュージアムショップには、展覧会の会期中絵葉書などのオリジナル商品の販売を委託した。2 月 4 日から 3 月 3 日に熱海・MOA 美術館で開催された「光琳アトー光琳と現代美術」展では、当館所蔵の「燕子花図屏風」が貸し出されたことから、当館のオリジナル商品 22 種を、MOA 美術館のミュージアムショップに販売委託した。

### (4) 喫茶店

庭園内に設置された NEZUCAFÉ は、来館者の憩いや談話の場である。定番の商品に、季節に応じた新商品を適宜加えることでメニューに変化をつけ、魅力あるメニュー作りを行った。本年度は展覧会のテーマにちなんだ期間限定商品の開発を行い、話題性のある商品の販売促進に加え、従来要望の多かった抹茶と和菓子のセットメニューを追加した。また、「燕子花図と藤花図」展の夜間開館期間中に、午後 5 時からシャンパンの販売を開始し、美術品の鑑賞と共に地の利を活かしたアフターファイブの新しい楽しみ方を提案した。食品や店内環境の衛生に万全を期すとともに、来館者の憩いや団らんのかたとして落ち着いた雰囲気の中で庭園の自然を眺める空間を維持し、リピーターやファン層の獲得に努めた。

## 2. 美術品の収集、保管及び修復

### (1) 美術品の購入

本年度に、美術品の購入はなかった。

### (2) 美術品の保管・修復

所蔵美術品の保管を万全にするために、以下の作業を行った。

#### (展示施設)

- ① 展示施設内の虫害に対するモニタリング調査を、年間 2 回（5 月 13 日～6 月 6 日、9 月 24 日～10 月 21 日）実施して、施設環境の監視を行なった。
- ② 展示ケース内の除塵防黴作業を、年間 2 回（7 月 15 日～7 月 18 日、2 月 24 日～2 月 26 日）行った。

(収蔵施設)

- ① 収蔵庫のカビや虫害に対するモニタリング調査を、年間2回(5月13日～6月6日、9月24日～10月21日)実施し、収蔵環境の監視を継続した。
- ② モニタリング調査の結果をもとに、大規模清掃を1月14日～16日に実施した。

以下の所蔵美術品の修理を実施した。

- ① 補助修理(平成26年度国宝重要文化財等保存整備費補助金、同年度東京都文化財保存事業費補助金ならびに自費負担金による「国宝 根本百一羯磨巻第六美術工芸品保存修理事業」として)

国宝 根本百一羯磨巻第六(平成25年度より継続) 1巻 岡墨光堂

- ② 自費修理および手入

伊勢近江風俗図屏風(平成25年度からの継続事業) 6曲1双 半田九清堂

牡丹猫図 1幅 半田九清堂

天明責紐十王口釜 1口 長野烈氏

方丈得月釜 1口 長野烈氏

能面「浅黄」 1面 石原良子氏

能面「鉄輪鬼女」 1面 石原良子氏

能面「千代若姥」 1面 石原良子氏

能面「鎌倉女」 1面 石原良子氏

能面「泥眼霊」 1面 石原良子氏

菊蒔絵香合 1合 目白漆芸文化財研究所

刀剣手入作業 168口 本阿弥光洲氏

能面収納箆筥 1棹 山中桐箱工房

(3) 美術品の寄贈受入

本年度、作品の寄贈はなかった。

(4) 美術品の寄託受入

本年度、下記の美術品の寄託を受け入れた。

重要文化財 絹本著色洞庭赤壁図 池大雅筆 1巻 大谷けい子氏蔵

3. 調査研究

(1) 調査・研究

引き続き、所蔵美術品および展覧会に関わる調査・研究を行い、新たな知見を館内での講演会や館外での学会などで発表するとともに、研究成果にもとづく研究紀要、展覧会図録および所蔵品図録を出版した。

- ① 紀要

『根津美術館紀要 此君 第6号 特集 井戸茶碗』

平成27年2月4日発行 800部

- ② 展覧会図録

『名画を切り、名器を継ぐー美術にみる愛蔵のかたちー』

平成26年9月19日発行 4,000部

『ふたつの双羊尊－根津美術館と大英博物館の名品－』

平成 27 年 1 月 9 日発行

4,000 部

③ コレクション図録

『琳派コレクション』

二刷 平成 26 年 4 月 2 日発行

3,000 部

(2) データベース

平成 21 年度に基本システムが完成した当館の収蔵品データベースについて、データの入力・更新、デジタル画像の登録、ならびにシステムの改善を行った。

- ① 和文の基本データ入力に続いて、英語の基本データ入力を主に工芸の分野で行った。引き続き、展示履歴および作品解説の入力作業を行った。また、画像の閲覧性を高めるべく、画像の配列を改良した。
- ② ポジフィルムの高精細デジタル化と登録を引き続き行った。デジタル化は、当年度 852 枚を終了したことで、収蔵品の主要画像のフィルムのうちほぼ 100%がデジタル化された。

(3) 研究資料の整備

美術品の調査・研究に必要な研究図書や研究資料の購入・収集・整理を行った。

- ① 昨年度に引き続き、図書の受入や収蔵図書データベースの整備や修正を行うことで、図書管理体制の充実化を図った。既に受け入れている図書については、アルバイト 2 名を雇用し、購入・受贈図書の新規受け入れの他、国内・海外の発掘報告書のデータ入力及び修正、海外売立カタログのデータ入力及び修正を予定どおり終了した。また次年度に予定していた、一般図書 0 類～6 類までの曝書とそのデータ入力及び修正、研究紀要・報告書と雑誌の分類見直しを、前倒しで行った。
- ② 本年度に刊行した図録および紀要を、国内 240、海外 108 機関に贈呈し、また美術館・博物館など 279 機関より学術刊行物を受贈した。
- ③ 展覧会の開催や当館所蔵品の研究のため、260 冊の研究図書を購入した。

(4) 学術プロジェクトへの参加

- ・館外の研究・教育機関が行う各種学術プロジェクトに参加し、国内外の研究者や研究機関とその成果を共有した。なかでも、展覧会出展を目的として英国・大英博物館より「双羊尊」を借用したことを機会に、大英博物館と根津美術館が所蔵する「双羊尊」を対象とする学術的調査を実施した。本プロジェクトには、当館学芸員のほか、大英博物館、泉屋博古館、富山大学、関西学院大学、東京国立博物館の研究者および技術者が参画した（本調査の報告書は平成 28 年度当館紀要に収載の予定）。
- ・文部科学省および各教育委員会の要請により、当館学芸員が、美術品の指定、保存、国家補償および国際会議の企画などに関わる会議に参画した。
- ・独立行政法人および公私立の博物館・美術館の要請により、当館学芸員が、美術品の購入・修理、館の運営などに関わる会議に委員として参画した。

(5) 美術品の閲覧

所蔵美術品の閲覧申請を受け、研究の目的や学術的成果が期待でき、且つ作品が安全な状態であることを確認のうえ、以下 29 件の研究に協力した。

閲覧日	閲覧者	所属	閲覧作品
[平成 26 年]			
5 月 3 日	佐々木勇	広島大学	足利尊氏願経
5 月 11 日	中村暢子	松永記念館	重要文化財 普賢十羅刹女像 他 2 件
	林温	慶應義塾大学	
5 月 25・26 日	三船温尚 金井大志	富山大学 原製作所	重要文化財 双羊尊 他 2 件
5 月 31 日	相澤正彦 矢島新 平澤愛美 吉川美紗妃	成城大学 跡見学園女子大学 同上 同上	つきしま絵巻 他 2 件
6 月 4 日	佐野みどり レイチェル・サンダース 石川温子 ミリアム・チューシド	学習院大学 アメリカ 学習院大学大学院 アメリカ	重要文化財 春日補陀落山曼荼羅 ハーバード大学大学院 プリンストン大学大学院
6 月 25 日	尾野善裕	奈良文化財研究所	柿の帯茶碗
6 月 27 日	小井川理	神奈川県立歴史博物館	聖徳太子絵伝
7 月 22 日	福島修	五島美術館	彫彩漆玉取獅子文軸盆 他 5 件
7 月 31 日	新川登亀男	早稲田大学文学学術院	重要文化財 大般若経巻第二十三 他 2 件
	岩本健寿 小川宏和 印南志帆	早稲田大学大学院 同上 同上	
8 月 6 日	梅沢恵	神奈川県立金沢文庫	重要文化財 五百羅漢図
8 月 7 日	所崎平	いわき串木野市文化財 保護審議会	陶片資料（串木野窯）
	所崎公子	同上	重要文化財 春日山蒔絵硯箱
8 月 12 日	山口由香 伊藤大輔	名古屋大学大学院 名古屋大学	夏草溪流図
8 月 16 日	小林祐子	三井記念美術館	重要文化財 春日山蒔絵硯箱
9 月 24 日	竹浪遠	黒川古文化研究所	重要文化財 瓜虫図
10 月 13 日	重富滋子	大阪市立東洋陶磁 美術館	重要文化財 青井戸茶碗 銘柴田 他 6 件
11 月 1 日	朴恵元 柳京熙 塚本麿充	韓国 国立中央博物館 同上 東京国立博物館	重要文化財 阿弥陀如来図 他 3 件
11 月 27 日	福田誠一郎	枕流会	青磁花生 銘夕端山の箱覆紙 他 1 件
	安部信一郎	安部栄詩郎記念館	
12 月 18 日	永井正浩	堺市文化財課	陶片資料（高取山田窯） 他 1 件

12月19日	谷川ゆき 恋田知子	国文学研究資料館 同上	蛙草紙絵巻	他1件
[平成27年]				
1月18日	Jay Jie Xu	Asian Art Museum of San Francisco	重要文化財 双羊尊	
2月5日	鈴木彰	立教大学	平家物語画帖	
2月10日	植松瑞希	大和文華館	朝陽舞鳳図	他1件
2月12日	高樹経沢 伏野喜深子		堆朱楼閣人物文盒	
2月13日	李賢秀 朴享國 申湜澈	韓国 仏教文化財研究 所 武蔵野美術大学 韓国 Jogye Order of Korean Buddhism Headquarters	高麗浮屠	
2月19日	柴橋大典	サントリー美術館	銹絵独釣図角皿	他3件
2月20日	大原由佳子 伊藤大輔	名古屋大学大学院 名古屋大学	浮舟図屏風	
2月23日	廣川守	泉屋博古館	重要文化財 双羊尊	他4件
2月24日	内山肇	(有)ウィズ・ハウス・ウチヤマ	猿図縁頭	
3月19日	重根弘和 計29件	岡山県立博物館 閲覧者50名	備前焼水指 銘黙雷 作品総数65件	他3件

#### 4. 教育普及

##### (1) 催事

引き続き、各展覧会に関連して、館内外の講師による講演会を講堂で開催した（参加費無料、定員130名）。また、担当学芸員が、講堂にてスライド・レクチャー、展示室にてギャラリートークを、随時実施した。

##### [平成26年]

##### ・特別展「燕子花図と藤花図ー光琳、応挙 美を競うー」

講演会1：4月26日（土）

早稲田大学 名誉教授 村重寧氏「燕子花図と藤花図」

聴講 116名

講演会2：5月10日（土）

ランドスケープ・ガーデナー 青木宏一郎氏「江戸園芸の燕子花と藤」

聴講 93名

##### ・コレクション展「カラフルー中国・明清工芸の精華ー」

講演会1：6月21日（土）

当館学芸員 多比羅菜美子「明清時代の漆工芸について」

聴講 47名

講演会2：6月28日（土）

当館顧問 西田宏子「明から清へー日本人の注文したやきもの」

聴講 96名

##### ・コレクション展「涼風献上ー絵とやきもので暑中お見舞いー」

講演会1：8月2日（土）

東国大学校大学院 教授 鄭于澤氏

「高麗仏画の魅力ー図像・技法・制作背景ー」

聴講 61名

- 講演会 2 : 8 月 30 日 (土)  
 当館学芸員 野口剛「夏秋草図の美と歴史」 聴講 59 名
- ・新創開館 5 周年記念特別展「名画を切り、名器を継ぐー美術にみる愛蔵のかたちー」
- 講演会 1 : 9 月 27 日 (土)  
 当館学芸員 松原茂「書画への愛ゆえに」 聴講 71 名
- 講演会 2 : 10 月 4 日 (土)  
 当館学芸員 多比羅菜美子「カスタマイズー工芸品にみる修理と改変」 聴講 76 名
- ・コレクション展「誰が袖図ー描かれたきものー」
- 講演会 1 : 11 月 22 日 (土)  
 武蔵大学 教授 丸山伸彦氏「誰が袖図と近世初期の小袖」 聴講 69 名
- 講演会 2 : 12 月 13 日 (土)  
 当館顧問 西田宏子「あらためて井戸茶碗の謎に迫る」 聴講 122 名

[平成 27 年]

- ・特別展「動物礼讃ー大英博物館から双羊尊がやってきた！ー」
- 講演会 1 : 1 月 18 日 (日)  
 サンフランシスコ・アジア美術館館長 ジェイ・シュウ氏  
 「双羊尊ー般時代における揚子江流域の青銅器製作ー」 聴講 81 名
- 講演会 2 : 1 月 31 日 (土)  
 泉屋博古館 学芸課長 廣川守氏  
 「中国古代青銅器の動物意匠ー双羊尊を中心にー」 聴講 91 名
- ・コレクション展「救いとやすらぎのほとけー菩薩」
- 講演会 1 : 3 月 14 日 (土)  
 当館学芸員 白原由起子「救いとやすらぎのほとけー菩薩」 聴講 95 名
- 講演会 2 : 3 月 28 日 (土)  
 筑波大学 准教授 近本謙介氏「女院と尼僧の鎌倉仏教史」 聴講 95 名

加えて、本年度は、有料の特別企画として以下の催事を講堂で実施した。

- ・特別企画「茶杓をつくろう」  
 : 8 月 9 日 (土) 講師: 池田泰輔 氏 (竹楽会講師・竹芸家)  
 定員 20 名 参加費 8,000 円 (18 歳以上) 2 回実施  
 申し込み者 40 名、当日参加者 37 名

茶室での催事として、本年度も引き続き、秋・春季恒例の、茶道初心者を対象とした「はじめての茶席」を開催した。

- ・「はじめての茶席ー冬日和を楽しむ茶席ー」  
 平成 26 年 11 月 20 日 (木) 於: 披錦齋  
 定員 100 名 (20 名×5 席) 参加費 2,000 円 参加者 101 名
- ・「はじめての茶席ー桜を待ちながらー」  
 平成 27 年 3 月 26 日 (木) 於: 披錦齋  
 定員 100 名 (20 名×5 席) 参加費 2,000 円 参加者 95 名

\*いずれも前売り参加券は完売。

また本年度は、展覧会に関連する特別企画として、以下の催事を茶室で行った。

・「秋山コレクションの茶席」

平成 26 年 4 月 24 日（土） 於：披錦齋

定員 40 名（20 名×2 席） 参加費 25,000 円

参加者 40 名

・「繕いのある器を楽しむ茶席」

平成 25 年 10 月 23 日（木） 於：披錦齋

定員 80 名（20 名×4 席） 参加費 20,000 円

参加者 62 名

\*いずれも前売り参加券は完売。

そのほか、「燕子花図と藤花図」展期間中の夜間開館時の集客を目的とし、初の「夜間開館特別イベント」を開催。入館者を対象として 5 月 16 日午後 6 時から、能楽師 観世鍔之丞師による仕舞「杜若」の無料公演を 1 階ホールで行った。立ち見を含め 150~200 名程度の観客から好評を得、夜間開館の認知向上にもつながった。また、日本の伝統行事を楽しんでいただく来館者サービスとして、7 月 3 日~7 日の期間、本館庭園口の軒下に七夕飾りとして 3 本の竹を備え付け、来館者が短冊に願いごとを書いて吊るすイベントを行った（参加無料）。約 200 枚を超える願い事を受け、後日金王八幡神社に奉納した。

(2) インターネットによる広報

引き続き、展覧会や各種の催事、施設などの情報をウェブサイト (<http://www.nezu-muse.or.jp>) で公開し、随時、情報の更新を行った。年間の閲覧回数は 749,672 アクセス（月平均 62,472 アクセス）、ユーザー数は 487,621 名（月平均 40,635 名）を数える。

平成 23 年度から開始した Web アプリ「根津美術館」(<http://www.nezu-muse.app.jp>) は PC 以外の情報端末ユーザーに対する情報提供チャネルとして活用されてきたが、上述の HP のリニューアルにより、スマートフォンやタブレット端末ユーザーも PC と同等の情報にアクセスできるようになった。一方で、端末の基本ソフトウェア（OS）の更新に伴う、Web アプリ側使用ソフトの対応の遅れなどが顕在化し、約 2 か月の間、表示の不具合やアクセス不能の状況が続いた。これに逐一对応していくことは恒常的なコスト増につながりかねないため、今後は HP に情報の窓口を一本化し、Web アプリはデジタルギャラリー機能に特化するなどの整理・見直しが必要と認識している。に Facebook では従来の展覧会紹介に加え、庭園の状況の投稿も意識的に増やしたことも効を奏したか、常用ユーザー数は昨年度末の 4,500 名から 8000 名に達し、Twitter でのフォロワー数も本年度末時点で 6000 名を超えた。3 月末には、Twitter 社の呼びかけに応じ、全世界の美術館・博物館が日替わりのテーマに沿って情報発信を行う「ミュージアムウィーク」イベントに参加。日本での初回イベントだったため認知度は低かったが、1 週間の間にお気に入りやリツイートが右肩上がりとなり、情報発信の方法として手ごたえを得ることができた。

(3) プレスリリース

美術館や展覧会の情報を、各種メディアに告知するプレスリリースを発信し、各展覧会の開催時期に合わせた各種パブリシティへの掲載、雑誌での特集記事やテレビ番組への協力を促進した。また同時に、ミュージアムショップやカフェの新商品などの告知リリースも配信し、多様なメディアに掲載されることを促し、それによる美術館・展覧会の認知度向上に引き続き努めた。さらに国内のみならず、海外の各種メディアからの問い合わせに対して情報を提供し、ニーズに合った対応に努めた。

#### (4) ポスター・チラシ・年間スケジュールパンフレット

引き続き、館外2か所に開催中の展覧会ポスターを掲示。館内には次回展のポスターとチラシや、年間スケジュール、根津倶楽部パンフレットを常備し、美術館および展覧会の認知度アップに努めた。英語版の館内配布用展示目録パンフレットならびに英語版チラシの作成・配布を引き続き行った。今年度も、各展覧会の開催時期に合わせ、近隣の商店や公共施設、文化教育施設、美術館、博物館、古美術商などに展覧会のポスターやチラシを配布し、各展覧会の内容に即した特定団体への情報提供を行うなど、きめ細かな誘客活動を行い、さらに、外国人集客に力を入れている東京都や観光庁の旅行案内所、都内主要ホテルへのチラシの定期提供ルートも開拓した。

#### (5) 内覧会・レセプション

展覧会の開催日前日（年度内7回）に、各種メディア向けの記者内覧会を実施して、展覧会の担当学芸員による展示解説を行い、メディアによる宣伝活動の促進を目指した。この記者内覧会に加え、特別展2回に際しては、美術関係の招待客を対象に特別内覧会及びレセプションも実施し、業界関係者や教育者などを通じての宣伝や誘客を図った。

##### ・特別展「燕子花図と藤花図－光琳、応挙 美を競う－」

平成26年4月18日（金） 記者内覧会 出席者 41名

##### ・コレクション展「カラフルー中国・明清工芸の精華－」

平成26年5月30日（金） 記者内覧会 出席者 31名

##### ・コレクション展「涼風献上－絵とやきもので暑中お見舞い－」

平成26年7月25日（金） 記者内覧会 出席者 30名

##### ・特別展「名画を切り、名器を継ぐ－美術にみる愛蔵のかたち－」

平成26年9月19日（金） 記者内覧会 出席者 57名  
特別内覧会 470名

##### ・コレクション展「誰が袖図－描かれたきもの－」

平成26年11月12日（水） 記者内覧会 出席者 43名

##### ・特別展「動物礼讃－大英博物館から双羊尊がやってきた！－」

平成27年1月9日（金） 記者内覧会 出席者 44名  
特別内覧会 378名

##### ・コレクション展「救いとやすらぎのほとけ－菩薩」

平成27年3月6日（金） 記者内覧会 出席者 34名

尚、この他に、MOA美術館との特別協力により平成27年2月～3月MOA美術館にて、そして平成27年4月18日～5月17日当館にて開催する光琳300年忌記念特別展「燕子花と紅白梅」の2館合同記者発表会を平成27年12月12日（金）に当館にて開催した。出席者は54名。

#### (6) 施設案内パンフレット

館内に、施設案内のパンフレット（日本語・英語・仏語・中国語・韓国語の4版）を引き続き常備した。

#### (7) 他美術館との協力

・特別展「名画を切り、名器を継ぐ－美術にみる愛蔵のかたち－」の会期中、ほぼ同時期に茶陶に関する展覧会を開催した三井記念美術館、五島美術館と共同企画として「秋の三館 美をめぐる」

キャンペーンを実施した。これは、他館の当該展の入館券の半分を持参した来館者の入館料の 100 円割引、さらに 3 館の半券を持参した来館者に、3 館の次回展共通招待券（いずれか 1 館のみ使用可）を贈呈するもので、「名画を切り、名器を継ぐ」展への誘客強化とともに、当館次回展への認知と誘客を狙うものであった。このキャンペーンによる割引を利用した入館者は 641 名（総入館者数の 2%）、次回展招待券の配布数は 736 枚、またその招待券を使った「誰が袖図」展への来館者は 248 名であった。

- ・引き続き、美術館関連団体に加入することで、他の美術館との情報交換を推進し、美術館業界の活性化に努めた。美術館業界の活性化を目的として森美術館が企画・運営する「カウントアート」に平成 24 年度より参加し（現在当館を含め 19 館参加）、展覧会毎に招待券を提供していたが、10 月に森美術館からの終了申し入れにより、終了した。

#### （8）地域との連携

- ・港区内の美術館として、本年度も、同区が年 4 回発行する広報誌『港区ミュージアムネットワーク』に展覧会情報を掲載し、読者への招待券プレゼント企画に参加した。
- ・港区が三田図書館で開催する「港区ミュージアムセミナー」の一環として、9 月に「名画を切り、名器を継ぐ」展にちなんだ講演を、担当学芸員が行った。
- ・毎年 10 月に開催され、当館も参加している港区主催の「みなと区民まつり」では、記念バッジ購入者向け特典として区内施設が入館料割引を実施する。本年は記念バッジに当館の外観が採用された。同じく 2 月に行われた港区主催「ミナコレ 2015 冬」イベントでは、無料バスの運行に際し、館前にバス停設置營をすることで参加・協力をした。
- ・展覧会のポスターやチラシを館員が持参して近隣商店や団体に届けることにより、緊密な関係構築に努めた。
- ・近隣の港区立青南小学校 3 年生の「総合」学習の一環として、近隣施設見学授業への協力要請があり、7 月に「カラフル」展見学を 25 名受け入れた。

#### （9）有料広告

- ・「燕子花図と藤花図」、「名画を切り、名器を継ぐ」、「動物礼讃」の 3 特別展への誘客のため、朝日新聞朝刊、日本経済新聞夕刊、読売新聞夕刊にクーポン広告（100 円割引券付）を掲出した。各展での掲出状況と利用者集計は以下の通り：

「燕子花図と藤花図」	計 2,303	（朝日・読売）（4%）
「名画を切り、名画を継ぐ」	計 366	（朝日新聞のみ）（1%）
「動物礼讃」	計 580	（朝日・日経・読売）（3%）

注：日経新聞、読売新聞への出稿は、朝日新聞に 3 回出稿することで得られる特典。

- ・また本年度は、従来特別展のみであった地下鉄・表参道駅のポスター（チラシ配布用ポケット付）掲示を、すべての展覧会において 2 週間ずつ実施した。これを通じ、駅利用者に毎回 200 枚程度のチラシを配布することができた。

#### （10）根津倶楽部

「根津倶楽部」は、固定客層の獲得を目的として、2009 年に開始した会員組織であり、平成 24 年 7 月より新たな制度に移行し、入会金 3,000 円、年会費 8,000 円で展覧会ごとの案内葉書と 1 名の招待券を送付し、会員証の提示で入館料無料、ミュージアムショップの 1 割引（一部商品を除く）の特典を提供している。平成 26 年度は会員が 196 名増加し、年度末の会員数は 435 名となった。

(1 1) NEZUNET

根津美術館の会員制メールマガジン「NEZUNET」(会費無料)は、新創開館以来会員数が増え続け、平成26年度は会員が403名増加し、年度末現在の会員数は4,400名となった。当年度は、号外をふくめて9回、メールマガジンを配信した。

(1 2) 青山茶会

「青山茶会」は、茶道にある程度習熟した人々を対象に、茶道美術への理解と普及、および当館のファンやリピーターを増すことを目的として、2年間10万円の会費で、各年4回の茶会と4回の講座への参加及び入館料無料の特典を提供する会員制度である。当年度平成26年度からの第三期会員172名が在籍しており、以下の講座と茶会を開催した。

[平成26年]

第一回講座	4月19日(土)	講師：竹内順一氏「室町～桃山時代の茶道具」	参加者	131名
第一回茶会	6月7日(土)	席主：東京宗和会 会長 増田宗蒔氏	参加者	148名
第二回講座	7月12日(土)	講師：岩間眞智子氏「薬としての茶の歴史」	参加者	117名
第三回講座	9月6日(土)	講師：荒川正明氏「懐石の器」	参加者	125名
第二回茶会	10月18日(土)	席主：安藤家御家流 御家元 安藤綾信氏	参加者	152名
第三回茶会	12月6日(土)	席主：江戸千家 御家元 川上閑雪氏	参加者	147名

[平成27年]

第四回講座	1月17日(土)	講師：筒井紘一氏「千家の成立」	参加者	116名
第四回茶会	3月7日(土)	席主：裏千家 矢島宗和氏	参加者	151名

(1 3) 美術品の館外貸出

以下の展覧会および茶会に、所蔵美術品の館外貸出を行った。

- ・「The Story of Chigusa」展 2014年2月22日(土)～7月27日(日)

Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Smithsonian Institution

桑中次	1合
井戸茶碗 銘 宗及	1口
鬼桶水指 銘 龍鱗	1口

- ・「国際浮世絵学会創立50周年記念 大浮世絵」展 2014年3月11日(火)～5月6日(火)

名古屋市博物館 高尾太夫吉原通船図 歌川広重筆 2幅

- ・「江戸の異国万華鏡－更紗・びいどろ・阿蘭陀」展 2014年3月15日(土)～6月8日(日)

MIHO MUSEUM	重要文化財 堅手茶碗 銘 長崎 および更紗包裂	1組
	面取手茶入 銘 染色 および更紗包裂	1組

- ・「国際浮世絵学会創立50周年記念 大浮世絵」展 2014年5月16日(金)～7月13日(日)

山口県立美術館 高尾太夫吉原通船図 歌川広重筆 2幅

- ・「探幽3兄弟」展 2014年4月19日(土)～6月1日(日)  
群馬県立近代美術館 山水花鳥図屏風 狩野尚信筆 6曲1双
- ・「Chinese Paintings from Japanese Collections」展 2014年5月11日(日)～7月6日(日)  
Los Angeles County Museum 重要文化財 竹雀図 伝牧谿筆 1幅  
三星囲碁図 朱氏筆 1幅
- ・「光琳を慕う—中村芳中」展 2014年4月8日(火)～5月11日(日)  
千葉市美術館 木蓮棕櫚芭蕉図屏風 伝立林何帛筆 2曲1隻  
蝙蝠図 伝立林何帛筆 1幅  
燕子花図 伝中村芳中筆 1幅
- ・「中国を旅した禅僧の足跡」展 2014年5月27日(火)～7月6日(月)  
九州国立博物館 重要文化財 龍巖徳真墨蹟 1幅
- ・「東山御物の美—足利将軍家の至宝」展 2014年10月4日(土)～11月24日(月・祝)  
三井記念美術館 国宝 鶉図 伝李安忠筆 1幅  
国宝 漁村夕照図 牧谿筆 1幅  
重要文化財 夕陽山水図 馬麟筆 1幅  
重要文化財 青磁筍花生 1口  
重要文化財 青磁筒花生 銘 大内筒 1口  
重要文化財 春日山蒔絵硯箱 1合
- ・「うるしの近代」展 2014年7月19日(土)～8月24日(日)  
京都国立近代美術館 鹿秋草蒔絵硯箱 1合
- ・「復古やまと絵 新たなる王朝美の世界—訥言・一蕙・為恭・清—」展  
2014年10月4日(土)～11月9日(日)  
徳川美術館 納涼図 冷泉為恭筆 1幅  
北野天神縁起絵巻(弘安本)模本 冷泉為恭筆 1巻  
文覚上人像模本 冷泉為恭筆 1幅
- ・「存星」展 2014年10月25日(土)～12月7日(日)  
五島美術館 彫彩漆玉取獅子文軸盆 1口  
林和靖図香合 1合  
魚々子地填漆龍文盆 1枚  
存星龍寿字文円筒形容器 1合  
填漆楼閣人物文輪花形合子 1合  
填漆龍文方形盆 1枚
- ・「古田織部400年記念 大織部」展 2014年9月6日(土)～10月26日(日)  
岐阜県現代陶芸美術館 絵瀬戸茶碗 1口  
信楽播座瓢水指 1口  
織部水次 1口
- ・「Ink and Gold: Art of the Kano」展 2015年2月12日(木)～5月10日(日)  
Philadelphia Museum of Art 両帝図 狩野探幽筆 6曲1双  
西王母図 清原雪信筆 1幅
- ・「白絵—祈りと寿ぎのかたち—」展 2014年10月11日(土)～11月16日(日)  
神奈川県立歴史博物館 聖徳太子絵伝 1幅

- ・「戦国時代の金とガラス きらめく一乗谷の文化と技術」展 2014年9月20日(土)～  
11月9日(日)  
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 五彩宝相華文碗 2口
- ・「大坂の陣 400年記念 浪人たちの大坂の陣」展 2014年10月11日(土)～  
11月24日(月)  
大阪城天守閣 重要美術品 職人尽図(傘張翁・虚無僧) 岩佐又兵衛筆  
1幅
- ・「尾形光琳 300年忌記念特別展 燕子花と紅白梅 光琳アート 光琳と現代美術」展  
2015年2月4日(水)～3月3日(火)  
MOA美術館 国宝 燕子花図屏風 尾形光琳筆 6曲1双  
白楽天図屏風 尾形光琳筆 6曲1隻
- ・「没後400年 古田織部」展 2015年3月2日(月)～4月12日(日)  
奥田元宋・小由女美術館 薩摩文琳茶入 銘 亀尾 1口
- ・「津久井光明寺の歴史と美術—無窓疎石ゆかりの禅宗寺院」展 2015年2月19日(木)～  
4月19日(日)  
神奈川県立金沢文庫 披錦斎図 宗甫紹鏡ほか賛 1幅  
重要文化財 月江正印墨蹟 偈 1幅  
計20ヶ所 43作品

(14) 画像の貸出

当年度も、ほぼ前年度数に近い207件の申請を受け、399点の画像を館外の刊行物や研究者に提供した。

(15) 施設の貸与

以下の講演会・茶会等に講堂・茶室等の施設を貸与し、催事への協力を行った。

・講演会(講堂)

[平成26年]

5月18日	ヨーテボリ大学	団体	27名
6月5日	日本陶磁協会	講演会	110名
6月22日	文藝春秋社・クリア読者イベント	勉強会	142名
9月20日	The World	団体	30名
9月26日	日本陶磁協会	講演会	87名
10月9日	フリッツハンセン	講演会	113名
10月26日	UBS銀行御一行 隈研吾氏講演	講演会	41名
10月27日	笛吹市一宮町	団体	55名

[平成27年]

2月4日	武蔵野大学社会人講座	講演会	20名
2月12日	慶應義塾大学日本学講座	講演会	20名
3月18日	国学院大学学術交流	講演会	28名

計11件 673名

・茶会（茶室、講堂）

[平成 26 年]

4 月 4・5・6 日	大師会	茶会	702 名
4 月 20 日	乙巴の会	茶会	66 名
4 月 27 日	松園会	茶会	326 名
4 月 29 日	大日本茶道協会	茶会	151 名
5 月 16・17 日	不洞会	茶会	13 名
5 月 31 日	上田宗箇流東京遠鐘クラブ	茶会	124 名
6 月 3 日	遊々会	茶会	69 名
6 月 28・29 日	不洞会	茶会	14 名
8 月 1・2 日	不洞会	茶会	15 名
9 月 20・21 日	不洞会	茶会	14 名
10 月 12 日	淡交会	茶会	57 名
10 月 15 日	裏千家インターナショナルアソシエーション	茶会	124 名
10 月 19 日	宗徧流関東地区	茶会	283 名
10 月 31 日	日本陶磁協会	茶会	309 名
11 月 3 日	慶應茶道会 全慶應茶会	茶会	259 名
11 月 15 日	藤田会	茶会	17 名
11 月 16 日	若葉会	茶会	253 名
11 月 21 日	みずほプレミアムクラブ	茶会	77 名
11 月 24 日	東京宗和会	茶会	49 名
11 月 26 日	なごみの会	茶会	49 名
11 月 30 日	白門茶会	茶会	240 名

[平成 27 年]

1 月 25 日	楽只会	茶会	45 名
3 月 27 日	吉田奈摘卒業記念茶会	茶会	9 名
		計 23 件	3,265 名

## II 収益事業

### 【事業の概要】

#### 1. 不動産事業

日本殖産興業株式会社と持分割合二分の一で建築した「青山サンライトビル」を建物の当館持分を貸店舗として日本殖産興業株式会社に賃貸し、管理は日本殖産に業務委託。他に、サンライトビル日本殖産持分の地代、駐車場の賃料、NTT ドコモの移動通信設備設置料等の収入があった。

### Ⅲ 庶務の概要

#### 1. 役員

平成 27 年 3 月 31 日現在

役職名	勤務	氏名	就任年月日 (初就任年月日)	職歴		
				現職名	最終公務員暦・同一業界	
					関係歴	退職年月日
理事長	非常勤	根津 公一	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	株式会社東武百貨店 取締役会長	学校教育	なし
常務理事	非常勤	矢野 恵一	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人根津美術館 常務理事	なし	〃
理事	非常勤	安田 弘	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	安田不動産株式会社 顧問	なし	〃
〃	非常勤	島尾 新	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	学習院大学 教授	学校教育	〃
〃	非常勤	渡邊 喜雄	平成 26 年 5 月 30 日 (平成 26 年 5 月 30 日)	株式会社カインドウェア 代表取締役会長	なし	〃
〃	非常勤	板倉 聖哲	平成 26 年 5 月 30 日 (平成 26 年 5 月 30 日)	東京大学東洋文化研究所 教授	学校教育	〃
〃	常勤	波多野 定治	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人根津美術館 管理部長	なし	〃
〃	常勤	松原 茂	平成 26 年 5 月 30 日 (平成 26 年 5 月 30 日)	公益財団法人根津美術館 学芸部長	なし	〃
		8 名				
監事	非常勤	後藤 康雄	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	はごろもフーズ株式会社 代表取締役会長	なし	なし
〃	非常勤	中瀬 雅通	平成 25 年 5 月 29 日 (平成 25 年 5 月 29 日)	株式会社三陽商会 相談役	〃	〃
		2 名				

評議員	非常勤	小林 喬	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	富国生命保険相互会社 相談役	保険業	なし
〃	非常勤	正田 修	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	㈱日清製粉グループ本社 名誉会長相談役	なし	〃
〃	非常勤	根津 嘉澄	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	東武鉄道株式会社 取締役社長	鉄道業	〃
〃	非常勤	秋山 智史	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	富国生命保険相互会社 取締役会長	保険業	〃
〃	非常勤	堀内 光一郎	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	富士急行株式会社 代表取締役社長	鉄道業	〃
〃	非常勤	望月 朗宏	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	日清紡ホールディングス 株式会社 顧問	なし	〃
〃	非常勤	安田 正	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人根津美術館 評議員	〃	〃
〃	非常勤	有馬 朗人	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	静岡文化芸術大学 理事長	東京大学総長 ・学校教育	平成 5 年 3 月 31 日
〃	非常勤	田村 妙子	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人山種美術財団 理事長	美術館	なし
〃	非常勤	徳川 義崇	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人徳川黎明会 会長	美術館	〃
〃	非常勤	根津 后方子	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人根津美術館 評議員	なし	〃
〃	非常勤	近藤 誠一	平成 26 年 3 月 19 日 (平成 26 年 3 月 19 日)	近藤文化・外交研究所 代表	文化庁長官	平成 25 年 7 月
		1 2 名				

## 2. 職員

職名	氏名	就職年月日	担当事務
館長	根津 公一	平成12年1月4日	総括
学芸部長	松原 茂	平成20年10月1日	日本書画史・学芸部総括
学芸第一課長	白原 由起子	平成20年10月1日	仏教美術史
学芸第一課	多比羅 菜美子	平成15年5月1日	漆工史・保存環境
学芸第一課	福島 洋子	平成21年4月1日	墨跡・学芸庶務・図書管理
学芸第二課長	野口 剛	平成20年10月1日	近世絵画史・情報管理
学芸第二課	吉岡 明美	平成21年4月1日	染織史・茶会関連
学芸第二課	下村 奈穂子	平成26年9月1日	陶磁
学芸部広報課長	所 純子	平成24年12月1日	広報全般
学芸部広報課	村岡 香代子	平成25年1月1日	広報
学芸部広報課	荒川 麻美子	平成21年4月1日	画像管理・商品開発
管理部長	波多野 定治	平成19年7月1日	管理部総括
管理部次長	鈴木 康生	平成13年4月11日	設備管理・顧客サービス
管理部	高室 修	昭和50年3月1日	庭園管理
管理部	田中 智子	平成2年9月1日	庶務・出納
管理部	宇田川 真紀雄	平成12年4月1日	会計・茶会
管理部	松井 麻美	平成21年4月1日	商品管理
管理部	須田 瑛生	平成26年3月1日	総務・会計
管理部	瀧野 史郎	平成24年9月1日	警備
	職員 19名	他に臨時職員 26名	

顧問	矢野 恵一	平成24年12月1日	
顧問	西田 宏子	昭和56年4月1日	
	顧問 2名		

### 3. 役員会

#### (1) 理事会

開催日 平成26年5月16日(金) 13時00分～14時00分

場 所 根津美術館 講堂

#### 議事事項

- ① 平成25年度事業報告の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ② 平成25年度正味財産増減決算の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ③ 文化財寄託規則制定の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ④ 文化財寄託受入の件  
質疑応答を経て審議の結果、大谷けい子氏より重要文化財 絹本著色洞庭赤壁図 池大雅筆 一巻の寄託を受け入れることを承認可決された。

#### 報告事項

- ① 第10回理事会日程について、平成26年5月30日(金)14時～14時30分に開催する予定である旨、報告があった。
- ② 中瀬監事より、美術品について定期的に台帳と実物の確認、棚卸を実施してはどうか、また、その規則を制定してはどうか、との指摘があった。根津理事長より、当館は収蔵品の件数が多く、実施するのが難しいとの発言があった。中瀬監事より、毎年実施しなくても、何年かかけてジャンルごと、基本財産のみ、等の分類により点検ができると良いとの発言があった。本件については館内で検討することとした。

開催日 平成26年5月30日(金) 14時00分～14時30分

場 所 根津美術館 NEZUCAFÉ

#### 議事事項

- ① 理事長選任の件  
審議の結果、根津公一理事を理事長に選任することを出席理事全員一致で承認可決した。
- ② 常務理事選任の件  
審議の結果、矢野恵一理事を常務理事に選任することを出席理事全員一致で承認可決した。

開催日 平成26年8月6日(水) 10時00分～11時00分

場 所 根津美術館 講堂

#### 議事事項

- ① 平成27年展示スケジュールの件  
質疑応答を経て審議の結果、本年度の展示計画については原案通り、出席理事全員一致で承認可決した。
- ② 保有株式に係る議決権行使の件  
武田薬品工業、みずほフィナンシャルグループ、旭硝子、NTTドコモにかかる議決権株式につき、事前に理事からの異議がない限り、今後すべて「会社提案に賛成する」旨の議決権行使をすることを出席理事全員一致で承認可決した。

③ 諸規定改定の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

報告事項

- ① 理事長の業務の執行状況について報告があった。
- ② 常務理事の業務の執行状況について報告があった。
- ③ 西田副館長が顧問に就任したことに伴い、9月1日より、陶磁器担当の学芸部職員として下村奈穂子氏を採用した旨、報告があった。

開催日 平成27年3月11日(水) 13時00分～14時00分

場 所 根津美術館 講堂

議事事項

① 平成27年度事業計画の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

② 平成27年度正味財産増減予算の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

③ 諸規定改定・制定の件

質疑応答を経て審議の結果、職員給与規程、事務処理規則、公益財団法人根津美術館における科学研究費助成事業－科研費－の研究実施規程の改定、及び、委員会規程制定について原案を出席理事全員一致で承認可決した。

報告事項

- ① 理事長の業務の執行状況について報告があった。
- ② 常務理事の業務の執行状況について報告があった。
- ③ 展示検討委員会の平成28年度以降の展示検討結果について報告があった。
- ④ 「東京の日本庭園おもてなし協議会」について報告があった。
- ⑤ 平成27年3月9日に安倍首相とメルケル独首相が来館した件について報告があった。
- ⑥ MOA美術館にて開催中の「光琳アート」展について報告があった。

(2) 評議員会

開催日 平成26年5月30日(金) 13時00分～14時00分

場 所 根津美術館 講堂

議事事項

① 平成25年度事業報告の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

② 平成25年度正味財産増減決算の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

③ 文化財寄託規則制定の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

④ 文化財寄託受入の件

質疑応答を経て審議の結果、大谷けい子氏より重要文化財 絹本着色洞庭赤壁図 池大雅筆 一巻の寄託を受け入れることを承認可決された。

⑤ 理事 8 名選任の件

根津公一氏、矢野恵一氏、安田弘氏、島尾新氏、波多野定治氏に重任を求め、新たに板倉聖哲氏、渡邊喜雄氏、松原茂氏に就任を求めることを、出席評議員全員一致で承認可決した。席上にて、根津公一氏、矢野恵一氏、安田弘氏、波多野定治氏、松原茂氏は就任を承諾し、理事に就任した。

報告事項

- ① 第 6 回評議員会は平成 27 年 3 月 25 日（水）12 時 30 分～14 時に開催する予定である旨、報告があった。

開催日 平成 27 年 3 月 25 日（金） 13 時 00 分～14 時 00 分

場 所 根津美術館 講堂

議事事項

① 平成 27 年度事業計画の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

② 平成 27 年度正味財産増減予算の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

③ 諸規定改定・制定の件

質疑応答を経て審議の結果、職員給与規程、事務処理規則、公益財団法人根津美術館における科学研究費助成事業－科研費－の研究実施規程の改定、及び、委員会規程制定について原案を出席評議員全員一致で承認可決した。

報告事項

- ① 理事長の業務の執行状況について報告があった。  
② 常務理事の業務の執行状況について報告があった。  
③ 展示検討委員会の平成 28 年度以降の展示検討結果について報告があった。  
④ 「東京の日本庭園おもてなし協議会」について報告があった。  
⑤ 平成 27 年 3 月 9 日に安倍首相とメルケル独首相が来館した件について報告があった。  
⑥ MOA 美術館にて開催中の「光琳アート」展について報告があった。

## IV 事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。